介護老人保健施設しおん

症　例　概　要　ご利用者　：　女性　要介護4

利用期間　：　R6年5月から現在

現病　：　高血圧症

既往　：　高血圧症、白内障、脳梗塞

経過　：　仙台にて90歳第後半独居。転倒の度に、仙台の警備会社より石巻の長女へ連絡がくる為、仙台へ行くことが度々あった。近くに住んでもらえば緊急時には駆けつける事が可能な為、石巻市内の施設を申し込んだ。当施設へR6年5月に入所される。

内　　容

100歳を迎えることを目標に「元気でいたい」と話されていた利用者さんは、98歳で入所された。入所時より下肢筋力の低下があり歩行にはリハビリ介入が必要な状態であった。夜間に自身でポータブルトイレを使用しようとした際に転倒し、額に裂傷を負ったことから、以降も転倒リスクへの注意が必要となった。

その後、9月にベッドから歩行しようとした際にも転倒。左大転子部に強い痛みが出現しレントゲン撮影を行ったところ骨折ではなく変形性関節症と診断された。しかし疼痛が強く、結果として寝たきりに近い状態となり、排泄もオムツ管理へ移行した。オムツ使用はご本人にとって初めてであり、何度も外される様子がみられたため、清潔保持の観点からフォーレを挿入。自己抜去はなかったが、トイレ要求は継続してみられた。

疼痛の軽減に伴い約1ヶ月後より離床・リハビリを再開。しかしフォーレ抜去試験では排尿が見られず、腹満を認めたため再挿入となった。下肢筋力は低下しているにも関わらずご本人は「トイレは自分で行ける」と強く思い込まれており、車椅子離床時に職員不在で独歩しようとする場面が頻回にみられた。他利用者さんからの指摘や苦情もあり、安全確保のためリクライニング車椅子の使用を開始した。

気分転換・意欲維持を目的に、新聞や工作などご本人の出来る活動を積極的に取り入れ、外食にも同行した。目標であるR7年9月の百寿を見据え、看護師とリハビリと相談の上で8月に再度フォーレ抜去を実施したところ自力排尿を確認。チームで協議し、日中活動量の確保とリハビリ継続により下肢筋力向上を目指した。「足が良くなったらトイレへ行こう」と目標を明確に共有し支援した結果、徐々に排泄行動が安定し、転倒なく100歳の誕生日を迎えることができた。

誕生日にはご家族と共にお祝いを行い、ご本人も大変喜ばれた。「まだまだ元気でいたい。好きなこと

がしたい」と希望を述べられ、好きなうなぎを食べたいという要望が聞かれたため、家族・看護師・リハビリと協力し外食同行が決定。今後もご本人の願いを大切にしながら、楽しみを持ち続けられる生活の支援を継続していく。

今回関わった職種：看護師、理学療法士、作業療法士、介護福祉士、相談員